

2018年度 交換留学 留学報告書

英語英米文学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2018年5月～2019年1月

実に濃厚な留学生活でした。まるで冒険でした。過去に何度か短期留学を経験してきましたが、今までで一番面白い約一年間だったと断言できます。交換留学をすることは極めて大きな決断であり、私なりの大人への第一歩となりました。イギリスの交換留学を決意した理由は、イギリスに憧れていたというより、いつかイギリスを舞台にした物語を創作してみたいという気持ちがあったからです。学生のうちに留学しておくのは良いことだよと、よく教えられていた私は、この長期留学を一つのきっかけと捉えるようになりました。

当然ながら、母国語以外の環境での勉強は、大変苦労しました。前期は英語を、後期はMedia & Filmの正規授業を集中的に学習しました。毎日のように配布される大量の英語の資料、エッセイのテーマに常に頭を抱えるほど大の苦手であるライティング、得意だと自分の中で思っていたリスニングは実はまだ改善が必要だと判明したこと、周囲の発言力に圧倒され意見を述べにくくなったこと、他者との交流を深めるのにどうしたらいいかなど、自分の実力不足を思い知らされた点が数多くあり、時には人知れず助けを求めたこともありました。しかし、くじけそうになったその瞬間こそ、積極的に挑むべきなのだと私は考えています。結局は自分の最大の味方は自分。分からない点があれば何回も教師に質問するなど、自分を助けるためには自ら積極的に動くことが重要だったのです。それ故にリスニング力は最も上達し、スピーキング力は最も大きく変化しました。これは今後の人生に大いに活かせる点だと思います。

私はホストファミリーに恵まれていました。笑顔が愛らしくて美しい母親と私より一回り年下の息子さんの二人。あの素敵な家族がそばにいたから、この時間は宝石に匹敵するほど価値があるものになったと、私は信じています。ホストファミリーはハロウィンやクリスマスなどのイギリスの文化や歴史を肌で感じられるよう、私に多くのことを教えてくれました。社会情勢も教わりました。本当に大事な人との関係を大切にすることも教わりました。私を最後まで気遣い想ってくれるその家族のおかげで、私の狭い視野と偏った価値観が大きく変化しました。私を悩ませていたエッセイを取り組むモチベーションを上げてくれました。私は長いこと、彼女たちと共に過ごしてきました、安心感と恩があったからです。文化や歴史などを学ぶことももちろん大事ですが、人を気遣い思いやることの大切さも実は留学を通して知ることが出来るのです。それを学べたこの研修は非常に貴重でした。私はこの2018年を一生忘れることはありません。

2018年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2018年5月～2019年1月

この一年間は人生の中で最も多く新しいことに触れ、吸収したと思います。大学進学時に生まれ育った地を離れ、新しい場所で暮らし始めたときも大きな環境の変化を経験しましたが、私にとって留学はさらに大きな変化を伴う人生の一大イベントでした。フェリスから交換留学生として同じサセックス大学へ派遣された仲間を除くと、全く知り合いがいない中での新生活は、不安を伴いつつ、私にとってはとてもわくわくするものでした。新しい学校、新しいクラス、新しい友達、新しい街、毎日新しいものだらけのなかで暮らすことはとても刺激的でした。私の場合、留学中にホームシックにかかったり、落ち込んだりすることもほとんどありませんでした。きっとそれは、私の新しい環境を楽しむことができる性格もありますが、イギリスで出会った人やものについて自分から知ろうと興味をもって接し、それに対してオープンでいるよう努めたからだと思います。

また、このことは語学の学習にも役立ちました。クラスやソサイエティで積極的に人とコミュニケーションをとるように努めたことで、そこから人間関係が広がり、多種多様なバックグラウンドを持った友だちを作ることができました。彼らと共に過ごすことで、イギリスの文化や英語はもちろん、他の国の文化や、彼らの考え方を吸収し、それが私の知見を大いに広げてくれました。異文化を知ること、またそれ以上に、異なる思想や経験を持った一人として彼らと対話することで、人の多様性を受け入れながら、自分の違いも認めてもらい、興味をもってもらうことができました。そして、人はそれぞれ違いを持っていて、それを受け止め、分かりあったうえで人と接することは同じ国籍・人種間でも同じことだと気づきました。様々な人と接する機会を作り、積極的にコミュニケーションをとったことでこのような学びを得られたのはとても貴重な経験となりました。

さらに、大学での勉強はとてもタフでしたが、周りの仲間達に助けをもらいながらやりきることができました。エッセイのアドバイスをくれたり、授業の準備を手伝ってくれたり、彼らがいなければ満足のいく成績をとることはできなかったと思います。留学全体を通してみると、留学中に会った人たちが私の留學生活の宝、また、一生の宝になったと思います。この10か月の留学期間、多くの新しい経験を通して、周りの人たちの助けを得ながらも、これだけ多くの学びを得られたことにとても感謝しています。

2018年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2018年5月～2019年1月

まず、語学力についてですが、留学中に多くの英語の文献を読みエッセイを書いたことから、読み書きの速さが上がり、語彙力も増えました。また、留学当初はネイティブスピーカーの発音や速さから会話についていけませんでした。今では日常会話はほとんど問題なく会話をするできるようになりました。また、語学コースのクラスには日本人も数人いたのですが、英語に触れる機会を増やすために、外国人の友達と多く過ごしていました。最初の頃は、英語が流暢に話せず、言葉がなかなかスムーズに出なかったこともあります。英語が第一言語のルームメイトと多く過ごし、ゆっくりでも話すことで克服することができました。一人ひとり、話し方やよく使う言葉が異なるので、自分の知らなかった言葉やフレーズに出会う度にメモを取り、その後会話ですぐに使ってみたりするなど、言語力を鍛えていました。また、価値観の違いを受け入れることにも目を背けずに向き合いました。さまざまな国籍の人と友達を作ることができました。授業については、特に正規の授業についていくことが難しく、セミナーの前に文献を読み、自分の意見を箇条書きにして、話し合いの際にすぐに思い出せるようにしました。そうすることで相手によりわかりやすく理解してもらえるように、論理的に話せるようになりました。また、講義では、聞き取れなかった箇所や理解ができなかった部分は授業後に、学校が開示している録音を聞いて、理解できるように努めました。

次に、卒業論文のテーマとして取り扱う予定の移民政策に関係する国民意識や個人のアイデンティティの形成、イギリスにおけるEU離脱の問題について深く知りたいと考えたからです。また、多様な価値観に触れ、自分視野を広げたいと考えたからです。しかし、正規の授業で、ネイティブスピーカーが多いセミナーでは、もっと、自分の意見をセミナーのメンバー全員の前で発表できなかったことは少し後悔をしています。現地の人と比べイギリスに関して知識をあまり持っていないのと、現地の学生のように流暢に話すことはできないことから、自信を持つことができませんでした。2、3人の少人数での話し合いでは、自分の意見を言え、詳しくない事柄を質問することはできたので、その面ではよかったと思います。様々なバックグラウンドを持った人々と交流することで、価値観の違いを認識し徐々に受け入れることができたので、どんな人とも相手を尊重して良好なコミュニケーションをとることができ、それは今後の人生に役に立つと考えています。

2018 年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3 年

留学先：イギリス サセックス大学

留学期間：2018 年 5 月～2018 年 9 月

私がこの留学を通して学んだことは、なんでも行動し挑戦してみることの大切さである。そもそも、この留学自体が私にとっての大きな行動であり、挑戦であったが、留学中にしたことはみな今の自分への大きな糧につながっていると感じる。例えば学習面でいうと、私はある物事をずっと続けることが苦手であったが、留学生活では自習の時間が多くあったため、苦手を少しでも克服しようと継続的に続けられる学習をしようと考えた。そのため、毎日英語のラジオ番組を 15 分間聞くこと、最低 1 つ興味を持った新聞記事を読むことを始めた。小さいことではあるが、この 2 つのことを始めたことで苦手だったことが毎日の楽しみへと変わり、その楽しみを通じてリスニング、リーディング含めた語学力が上がっていった。もし留学をしていなかったら、また、自分から行動しなければ、コツコツと日々積み重ねる努力の大切さも、続けることで得る大きな成果も気づくことがなかったと思う。また、授業中は発言する時間が多くあるが、はじめは積極的に発言することがなかなかできなかった。しかし、勇気を出して発言してみれば、自分の意見に相手が同意してくれる、自分の考えをわかってもらえるため相互理解に繋がることを実感した。最初の行動は勇気のいることであるが、はじめの一步を踏み出すか踏み出さないかで大きく自分の道が分かれるのだと感じた。

授業以外でも、学校の交流会などに参加し友人の輪を広げたり、長期の休みには他国へ旅行したりと積極的に行動した。これまで自分から誰かを誘ってどこかに出かける、ということがあまりなかったが、留学中に気になったものやイベントがあると、友人を誘って参加したり、自分から声をかけるようになっていたことに自分自身が一番驚いた。しかし、その行動を通して多くの出会いがあり、様々な文化に触れ、物事に対する自分の考えや視野が大きく広がった。行動・挑戦することで成功し、よかったことはたくさんあったが、それと同時に失敗も多くあった。それでも、失敗した際にはだれか周りの人に助けられ、支えられたため、失敗もよい経験だとプラスに考えることができるようになった。何事もやってみなければ結果は返ってこないし、何も始まらないと以前から聞いていたけれど、留学を通してそれを自分自身が強く感じた。今まで、やってみたいな、やりたいな、と思うだけで行動に移せなかった自分が「とりあえずやってみよう」という意識に変わったこと、その行動・挑戦により多くのことを経験できたこと、その大切さを知れたことがこの留学生活で私が学んだことである。